

日本文化「祭り」存続へ

県神社庁と総代会
豊橋支部が新年会

研修で中村県議講演

老津神社

県神社庁豊橋支部(中村和彦支部長)と、県神社総代会豊橋支部(印南道孝支部長)による新年祭と会議が23日、豊橋市老津町の老津神社で開かれた。第2部の研修で、市選出の中村竜彦県議が講師として登壇し、「人口減と消えた伝統文化」のタイトルで話した。

2025年2月5日付の本紙に中村氏が寄せた「人口減と消えた伝統文化」の原稿掲載がきっかけ。記事を読んだ田原市の氏子総代会の安田幸雄支部長からの依頼で、中村氏は昨年10月22日に華山会館で講演した。それを報じた記事を見て、豊橋支部でも講演してほしいとの依頼があり、中村氏が引き受けた。中村氏は出身の旧富山村の歴史から、今年でいったん幕を閉じた村の御神楽祭りについて、奥三河の「花祭り」と、南信州の「霜月神楽」と比較しながら紹介した。また、里帰りして来る可能性のある舞い手に比べ、祭礼の運営側である氏子役員の超高齢化こそが地域の伝統文化(祭り)の存続に致命的な打撃を与えていると指摘した。

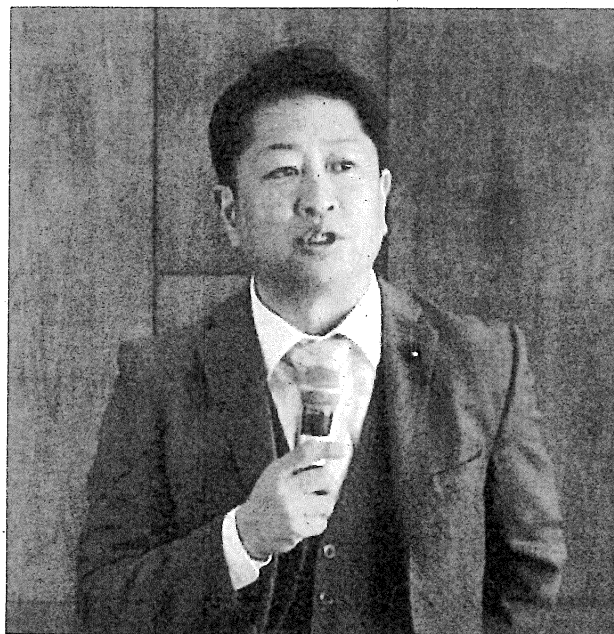
背景には人々の価値観の変化、娯楽の多様化、避けられない人口減少がある。考えられる対策として①担い手確保の多様

化(運営側への女性参加、若者の参加など)②継承方法の現代化(口伝や見て学ぶといった従来手法から、練習や所作を

動画やデータ化して記録を保存すべきことなど)③日本の文化財として、地域の祭りにさらに公が保護することの必要性和政教分離原則との両立は可能であること、などの持論を述べた。

そして「日本らしさとは何か。日本文化とは何か。グローバルな時代だからこそ他国との違い(アイデンティティ)が求められる時代だ。地域における誇るべき日本文化の代表ともいえる『お祭り』を、氏子の皆さん、宮司の皆さん、地域の皆さんで知恵を出して守りましょう」と呼び掛けた。

講演する中村氏＝老津神社で(提供)



【山田一晶】